

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校 高山日赤分校

学校番号 118B

自己評価

学校教育目標	・主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～	
評価する領域・分野	「進路指導」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部が開設され2年目となり、進路に関する当校の支援内容や情報提供について保護者からのニーズが高まっている。 ・今年度、高1が2名、高2が2名在籍となった。生徒の実態の幅が大きく、各自に応じた具体的な進路指導が必要になってきている。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を進めながら主体的に進路選択ができるよう、生徒への進路支援の充実を図るとともに、情報収集、進路開拓、関係諸機関との連携を図る。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・生活進路支援部：生活支援と進路支援の業務を行っている。進路指導だけでなく、卒業後、生徒が主体的に生活できるよう支援することを同時に検討し、実践することができる。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの生徒も多く、発達段階の違いも大きい。卒業後も主体的に生活できることを視点に一人一人に応じた進路支援を行う。 ・全校児童生徒の「個別的教育支援計画」や進路希望調査を行い、担任と連携して個別懇談等で本人・保護者の希望やニーズを把握する。 ・生徒が製品を製作し、学習発表会で販売できるよう支援した。 ・6月と11月にキャリアアップウィークを設定し、校内作業実習、現場実習、進路に向けた講話等を行う。 ・事業所、関係諸機関と連絡を密にし、卒業後の進路選択の情報を蓄積する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が、自己理解を進めながら主体的に進路選択を行おうとしたか。 ・進路に関する情報収集、進路開拓、関係諸機関との連携を図れたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に進路希望調査を行い、希望を把握した。中・高等部の個別懇談に進路指導主事が入り、必要な進路に関するニーズを確認した。 ・中高の重複障がい学級の生徒は、作業学習や自立活動として作業に取り組んだ。ピートモスポット、紙漉きなどを行い、学習発表会で販売もした。主体的に作業に取り組む姿勢や多くの人とかわる力の向上を重視し指導した。 ・キャリアアップウィークでは、6月は学習発表会での販売に向けた製品、11月は委託や注文製品の校内作業を行い、1名の生徒は現場実習を行った(中高)。また、大垣共立銀行若手行員の「社会人として」高山市サービス公社職員の「福祉サービス等の利用について」の講話(中高)、ブラックブルズ監督や選手との交流(全校)を行った。 ・本校の進路指導のノウハウを学びながら、進路指導主事が積極的に事業所、関係諸機関に出向き関係づくりを行った。本校での「ビジネスマナー講習」などに生徒を参加させた。夏期休業中に職員の職場見学をするとともに、希望する生徒保護者とともに事業所見学を行った。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に向け、生徒が学校生活で行うべきことに気づくことができたか。 ・本人や保護者が卒業後の生活をイメージし、必要な情報を得ることができたか。 		(A) B C D A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>○成果 生徒は、卒業後の生活を意識し、実習や講話を通して自分の課題や必要なサービスに気づいたり、作業に集中したり、外部の人と積極的に関わったりした。</p> <p>▲課題 本人保護者とも卒業後の生活や必要な支援についての具体的なイメージが不十分であり、一人一人の状態も大きく違うので個々に応じた情報提供が必要である。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて高等部卒業生をだすので、生徒自身が自己理解を深め、納得する進路選択ができるようキャリアアップウィーク中心に進路支援の充実を図る。 ・本人・保護者に卒業後の生活について具体的なものを提示し、関係諸機関につなげる。 	

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校 高山日赤分校

学校番号 118B

自己評価

学校教育目標	・主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～	
評価する領域・分野	「保護者、地域との連携」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教職員とも、非常変災時に児童生徒の安全を確保するという防災への意識が高まっている。 ・保護者は、地域に様々な方法でアピールし、当校及び児童生徒について地域の方へ理解を深めてほしいという強い願いがある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・非常変災時の対応について保護者と連携して取り組む。 ・当校の児童生徒や教育活動について、地域に積極的に発信し理解を深める。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外部と保健安全部が連携して親子での命を守る訓練を計画し実施する。 ・学習支援部や渉外部を中心に地域への発信の取組を計画し実施する。 	
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回命を守る訓練を授業参観として位置づけ、保護者とともに避難体験や避難用具の使い方、危険個所の確認を行う。 ・校外3か所での作品展（児童生徒の写真展示も含む）、学習発表会（PTAバザーも含む）の地域への広報や案内、地域貢献としてPTA清掃活動、PTAが中心となり今年度初めて校下（花里小）の芸能発表会に参加する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練を通して保護者・教職員の防災意識を高めたか。 ・地域への周知の取組により、当校への関心が高まったか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回命を守る訓練（6/26）を実施。校内の非常口等の確認、地震を想定したシェイクアウト訓練、学校駐車場への避難を親子で体験した。さらに、児童生徒をモデルに避難用おんぶ紐の装着、車いすの児童生徒を階段から（3段）降ろす訓練を保護者・教職員で行った。 ・十六銀行高山支店（10月）、高山赤十字病院互助会作品展（11月）、大垣共立銀行高山支店（2月）での作品展。児童生徒も見学した。新聞掲載も働きかけた。 ・学習発表会（9/30）の案内やバザー提供の依頼を広報、地元誌等で呼びかける、保護者と連携してチラシを近隣住民に配布する等行った。当日は、80名を超える来場者があった。 ・清掃活動は、昨年度よりも1回増やした。（5/28日、12/4月授業参観前）教職員も参加し、学校名の入ったベストを着用し、学校周辺、普段児童生徒が利用している公園や神社及びそのコースのゴミ拾い等を行った。 ・花里校下芸の発表会候（10/22日）は、参加可能な親子がステージに立ち、合唱と合奏を行った。作品も展示した。教職員も、準備・設営のサポートを行った。 	
評価の視点		評価
<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練を通して保護者・教職員が防災の課題を意識できたか。 ・当校の児童生徒や教育活動について地域へ周知されたか。 		(A) B C D A (B) C D
成果・課題		総合評価
<p>○成果 保護者・教職員とも訓練する大切さを実感し、防災対策への多くの課題が意識できた。PTA会長が中心に芸能発表会参加を推進し、教職員も協力して9組の親子が参加できた。地域の方から好評を博した。</p> <p>▲課題 当校児童生徒に適した非常食・防災グッズ、車いす児童生徒の避難方法、家庭での防災対策等多くの課題が上がり、系統的に防災対策を考える。外部発信の場の拡大が保護者や教職員の負担にならないように、日程・内容・方法を検討する。</p>		A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・防災等対策委員会をより機能させ、系統性のある防災対策を構築する。また、PTA研修会として来年度は、非常食試食会を開催する。 ・作品展会場を開拓し、学習発表会で展示した作品や写真を中心に展示する。休日の活動は減らし、準備に負担がかからない芸能発表会への参加を検討する。 	

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校 高山日赤分校

学校番号 118B

自己評価

学校教育目標	・主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
--------	----------------------------

評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」	
現状及びアンケートの結果分析等	<p>・一人一人のよさや可能性を伸ばそうとしている当校の教育方針、教育内容に児童生徒、保護者とも高い評価をしているが、卒業後の生活に不安を感じている。</p> <p>・昨年度から2年計画で、～自ら『気づく、考える、動く』姿を目指して～を研究テーマにあげ、社会の中で主体的に生きる力を育てるために、授業づくりを通じた実践研究を行っている。</p>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>・児童生徒の目指す姿に向けて具体的支援（教材教具、環境設定、教師の支援）の充実を図る。</p> <p>・各グループで児童生徒の『気づく、考える、動く』姿と評価の観点を明確にする。</p>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>・教務研修部：研究グループを①小学部（重複：自立活動「おはなし」）②中高等部（重複：作業学習、自立活動「作業の時間」）③中高等部（通常：各教科、自立活動）を3つに分け、研究を行う。</p>	
目標の達成に必要な具体的取組	<p>・月1回研究の日は、グループ研究を中心に定期的に全校研究会を行い、各グループの研究の状況の把握、授業研究会を行う。7/13には要請訪問で、指導を受ける。</p> <p>・児童生徒の実態一覧表の作成し、伸ばしたい力を焦点化して、具体的支援を工夫する。細かな評価の観点を指導案に記述し、KJ法を用い授業研究を行う。</p>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>1グループ：五感に働きかける活動を受け止め、主体的に活動できたか。</p> <p>2グループ：作業や販売に積極的取り組み、仲間との一体感や達成感をもてたか。</p> <p>3グループ：仲間の言動から自分の取るべき行動が分かり、主体的に取り組めたか。</p>	
取組状況・実践内容等	<p>1グループ：物語に沿って、児童が受け止めやすい五感に働きかける様々な教材教具を用意し繰り返し授業を行った。変容する児童の姿を教員間で共有し、工夫や対応していく中で、見通しや主体的に活動する力をつけた。</p> <p>2グループ：生徒の日常動作・興味を生かし、教材教具を工夫して主体的に取り組める作業や販売を行った。待つ姿勢、仲間の様子を伝える、工程表の提示などきっかけを与える支援を行い、生徒の気づき、考える流れを大切にされた。</p> <p>3グループ：各教科では、話し方を録画、依頼を待つ、答えやすい具体的な発問等各生徒の課題への支援、集団活動では、全体の様子を録画し客観的に自分と仲間の様子を客観視できるようにし、自信をもって自分から取り組む力をつけた。</p>	
評価の視点		評価
<p>・児童生徒の目指す姿に向けて各グループの具体的支援は適切であったか。</p> <p>・各グループでの『気づく、考える、動く』の姿と評価の観点は、社会の中で主体的に生きる力を育てるのに適切であったか。</p>		<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
成果・課題		総合評価
<p>○成果 個々の児童生徒を『気づく、考える、動く』視点で実態把握、目指す姿を常に検討したことで、教員間の共通理解が図られ、授業で特に伸ばしたい力が焦点化でき、教材教具、場面設定、言葉かけ等の工夫や改善等の支援が都度行うことができた。</p> <p>▲課題 研究の場（授業）で培った主体的に活動する力を他の授業、生活の各場面に広げていく必要がある。</p>		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・社会生活や卒業後の生活を見据え、児童生徒の自らの『気づく、考える、動く』の姿から、「自ら社会と関わる力」をより意識した授業づくりを行う。</p>	

意見・要望・評価など

「進路指導」

- ・卒業後の進路に向けた取組が、昨年度より充実してきて良い。ただ、社会で生活するという事は、高等部3年間では、イメージすることが難しいと思われるので、中学部くらいから少しずつ触れていけるとよい。
- ・保護者が最も不安に思っていることは、卒業後の生活である。もっといろいろな情報や、実際に卒業生の話、保護者の話が聞けると少しでも安心できるのではないかと。
- ・高山日赤分校中学部の卒業生が現在大学生となり、春休みのアルバイトに当方（学校評議員）の店にきていて、その姿を見るととてもうれしく思う。

「保護者、地域との連携」

- ・命を守る訓練は、保護者で行ったということはとても良い。日頃から訓練を行っていないと突然の災害時にはすぐには行動できないと思うので、続けてほしい。
- ・地域に向けて積極的にかかわろうとする姿勢が見られ、今後子どもたちが社会に出ていきやすいよう取り組んでいると感じた。
- ・地域への発信については、地域の行事に参加するなど、とても良いことなのでぜひ続けていってほしい。

「教育活動・学習活動」

- ・教育活動・学習活動については、それぞれの障がい等に合わせて行われており、以前から感心させられている。いろいろと工夫、研究されていることは素晴らしい。
- ・教職員は、児童生徒一人一人を大切に、個別に関わっていて、丁寧な指導をしている。
- ・学習等に関しては、とても個別的な活動や指導等ができることが、分校の強みであると思うので、一人一人とじっくりと向き合ってもらい将来に向けた学習を行ってほしい。
- ・学校教育目標に掲げられているとおり、児童生徒一人一人が自分で気づき、自ら考え、自主的に行動することができるよう、学校において引き続き、支援して行ってほしい。

その他

- ・平成29年度も様々な項目に向け積極的に取り組まれていて、来年度への課題も具体的に挙げ、実践可能な目標につながっていると思う。
- ・疾病・障がいがあるお子さんを育てている親さんは、定型発達のお子さんを育てている親さん以上に悩みを抱えていると思われる。分校に籍のある方以外に対してもアドバイスができるよう、相談の窓口を充実していただきたい。